# 命尊し

犬山・寂光院山主
松平實胤（まつだいらじついん）



**殺してはいけない！**

なぜ人を殺してはいけないのか、という「なぜ」に対する回答は十人十色、千差万別でしょうが、結論はすべて「だから殺してはいけない」ということに尽きます。「だから平和憲法を守らなくてはならない」のです。

お釈迦様は次のように説いておられます。

すべての者は暴力におびえている
すべての者は死をおそれている
（他人を）自分の身にひきあてて、
殺してはならない
殺させてはならない

（殺すことを傍観してはならない）

（法句経一二九）

**命尊し！**

「命」とは、「息の力」のこと、「生きる力」のことです。私には今命があります。私は今息をしている、息の力がある、生きる力がある、だから生きています。さてこの息ですが、私は六十九才です。ということは六十九年間息のしっぱなしで休んだことはありません。寝ても覚めてもいつでもどこでもです。

さて、この今のこの一息は私の誕生のその瞬間から六十九年間絶えたことはありません。いや生まれる直前まで母が代わりに息をしておりました。私は母と息の力、命がつながっています。当然父と繋がっています。しかし、今があるということは始まりがあったということです。その始まりを求めれば、それは人類の起源でしょうか、生命の起源でしょうか、ビッグバンでしょうか、とにかくこの今の私の一息はずっと繋がっています。

こんなちっぽけな私ですが、限りない時の流れが私を支えています。すべての条件が整って私は生まれてきました。つまり計り知れない条件がこの私を支えています。それほどまでの私の命です。それほどまでのあなたの命です。それほどまでのみんなの命です。

「命尊し！」としか言いようがありません。

**仏性あり！**

このように見てきますと、俺の命ということも、私の子供とも表現できません。縁あっていただいた命、縁あって私のところに授かった子供としか言いようがありません。

さて、仏教では、息の一番の始まりを「本源」といい、それを「大いなる宇宙、大いなるいのち」ととらえます。そして、それを仏格化して「仏」と呼びます。私の息の力、命は仏様からずっとつながっています。ということは誰でも仏としてのＤＮＡ＝仏性（ぶっしょう）を戴いて生まれてきます。

私は今、「仏様から戴いた命」を生きています。